

生涯学習センター及び文化情報センター 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】生涯学習センター・文化情報センター

【指定管理者名】株式会社アステム

【評価対象年度】令和3年度

【施設所管課名】産業・文化部 生涯学習課

業務内容についての評価

令和3年度も前年に引き続き、本市の生涯学習活動拠点としての施設運営業務に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の危機（以下「コロナ禍」という。）への対応に追われる1年となりました。

コロナ禍で計画していた事業が実施できない中、生涯学習センター及び文化情報センターでは、昨年度に引き続き動画配信事業に取り組むとともに、感染状況に応じて対面での事業を再開することができました。音楽鑑賞や舞台鑑賞、講座受講それぞれで対応をいただき、文化やまなびを待ち望んでいた参加者の方々からの喜びのお声をいただいています。また、貸館事業についても、ガイドライン等を遵守し、安全面を損なうことなく運営されました。アクロス公式マスコットキャラクターをオンラインも含めて募集、決定されたフクロウをモチーフとした「アクロウ」を動画でPRしていく等、15周年記念をきっかけとした更なる活性化を目指す姿勢が感じられました。

施設の維持管理では、日々修繕を行いつつ適正な管理を行っており、経年劣化による状況報告等を市へ行っており、利用者目線に立ち、早急に必要な修繕、指定管理者で対応できる修繕の仕分けを行い、対応できています。

コロナ禍という状況の中、刻一刻と変化する状況において常に情報収集を怠らず、市民サービスの向上、安全性と利用者満足度の兼ね合いを踏まえて、市と協議を行った結果、定員を緩和することができたこと等、市民の“まなび”を止めない施設運営に取り組んでいることを高く評価しています。

利用者満足度について評価

利用者アンケートでは、利用者数の減少や市民サークルの活動自粛により、昨年同様少ない回答数ではありましたが、8割を超える利用者が「満足」「やや満足」と回答され、前年度より改善しています。

コロナ禍での対応は、利用制限等に伴う施設予約のキャンセル等が発生し、還付手続き等も行いましたが、そのような中でも、利用者アンケートで「不満」と答えた方が一人もおられないのは、利用者をはじめとした市民の皆さんへのきめ細やかな対応を実践されていたと評価しています。

収支状況について評価

指定管理料の範囲内で、経費の節減を行っており、今後も創意工夫により、業務仕様書以上のパフォーマンスを上げることが希望しています。

令和 3 年度の収支状況も昨年度同様、コロナ禍という状況の中で非常に厳しいものとなりました。施設利用の予約の取消しによる還付については、市の政策決定により利用料金の減収に係る補填が行われたことにより収支は黒字となったものの、コロナ禍への対策費用等が加わる中で、これまで以上の経費節減を行っていただいております。

次年度以降もコロナ禍に対応しながら、引き続き市と互いに緊密な連携を取りながら、厳しい状況ではありますが、持続性をもった施設運営が行えることを期待します。

総合評価

前年度の内部評価では、コロナ禍への対応を行いつつ、“まなび”を止めない施設運営をお願いしました。生涯学習センター及び文化情報センターの運営にあっては、コロナ禍であっても、市民の生涯学習活動、文化活動の普及振興を図ることを目的として設置された施設であるという基本理念のもと、きめ細やかな運営がなされていることが伺えました。その背景には、“まなび”を止めないという理念をスタッフ一人ひとりが意識され、実現に向けた強い想いを感じることができました。

令和 4 年度も、引き続き情報収集を行いながら、新しい生活様式に則ったこれまでにない事業展開や市民の生涯学習活動のサポートを期待しています。